

町民構成劇

おけと100年物語～生命のつながり

構想から2年、「おけと100年物語～生命のつながり」をテーマに約450人のキャストと約70人のスタッフによる手づくりで、4地区の歴史のエピソードを演劇で紹介することにより、先人が築いてきた歴史と伝統や文化を後世に伝え、故郷への愛着と誇りを感じ、町民の絆がより深く温かく「まあるく」一つにつながることによって、これからの地域づくり、まちづくりへのエネルギーになるよう町民参加で再現した構成劇が11月29日、中央公民館で上演されました。

上演に向けて劇団風の子の木島理恵子さんが各地区や学校を回り、演技の指導を行い、7月から稽古を重ねてきました。劇は3部で構成され3時間におよぶ思いの詰ったものとなり、終了後には観客から盛んな拍手が送られました。写真で当日の様様を紹介します。

第1部 開拓の苦悩と喜び



はじめりは、青年4人から

水野将貴さん～タツヤ(青年)・平村エレコーク役



有馬君に誘われた時は進行役と聞かされていたので演技は想定外でした。木島さんからは「自分の話しやすいように楽しくやろう」とアドバイスを受け、会話形式で自然な会話を心がけました。劇を通じて、今の置戸ができた過程を知ることができていい機会でしたし、この大々的なイベントに関わられて光栄でした。練習に没頭していたので、終了後はぼっかり穴が空いて燃え尽きた感じです。もし次の機会があれば楽しい経験でしたので、舞台に出なくても携わってみたいです。

千葉裕子さん～境野生徒役、衣装担当



起統教授場の生徒役として夏から週1回練習をしましたが、台詞を覚えるのが大変でした。衣装作りは元々好きで、平村エレコークの着ている毛皮の形や生地を試作しながら脱ぎやすい形に作ったりと楽しく作ることができました。



置戸の森の中で



境野 教育発祥の地「起統教授場」